

9～10月の支出(図書、備品、慶弔、飲食除く)

86,133円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

印刷代(月刊武松印刷代)	13,320円
交通費(駐車場、燃料代、高速代)	17,469円
会場費	600円
通信費(携帯電話代、折込代)	54,744円
支出計 09/9/1～09/11/1	86,133円
寄付 Yさん	3,000円

市政を考える

月刊武松

発行日
09/11/2

第104号

15500部発行

たけまつ ただし

頒布責任者：武松 忠 (市議会議員)
武松政策研究会

ごみ処理広域化①!?

協議会が事業方針を説明!?

先月は、参院補選の関係で、月刊武松が、急遽発行できませんでした。

さて、現在小田原市では、ごみ処理広域化を検討しています。2006年度にごみ処理広域化を目的として、小田原市、箱根町、湯河原町、真鶴町により「小田原市・足柄下地区ごみ処理広域化協議会」を設置しました。本年6月にその考え方が示され、住民説明会も行われました。今回は、ごみ処理広域化について整理します。

■焼却施設の状況

小田原市のごみ焼却施設は、1979年に稼働開始(180t/24h約14.1億円)され、1991年に増設稼働開始(150t/24h約33.2億円)、ダイオキシン対策に1999～2002年に炉本体を改修(37.8億円)を行いました。

箱根町 1993年稼働開始(135t/16h)

湯河原町 1997年稼働開始(70t/16h)

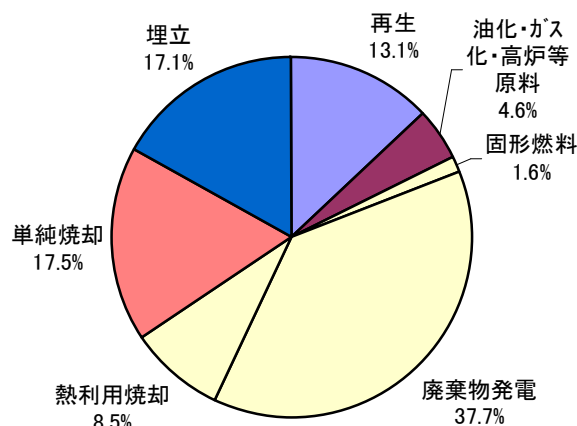
■現在の問題点

- ・小田原市の焼却場は、施設建設から30年を経過し、**施設としては更新時期を迎えている。**
- ・最終処分場(堀ヶ窪埋立処分場)の**残余年数は、2年しかない。**(広域化が前提で新処分場を凍結)
- ・残渣と灰の処分は、現在は**全て県外で有料処理**している。(年間約4億円)
- ・箱根と湯河原は、連続焼却していないので、毎日着火、消火を繰り返すため効率が悪く、燃烧温度の維持が難しいため有害物質の発生が多くなる。(フィルターで大気中には排出されない。)

■ごみ処理広域化の考え方

- ・**熱回収施設(焼却施設)を小田原市に**
320t/24h 稼働目標2020年度 **170億円**
焼却方式は、今後実施計画策定に向け、検討する
- ・**最終処分場を3町のいずれかに**
容量53000m³ 稼働目標2020年度 **30億円**
焼却灰100%資源化。不燃残さは可能な限り、資源化を行い残りは埋立処分する。

図1 一般系廃プラの処理(重量%)



■廃プラスチックの処理と再資源化

全国の有効利用率は73%(2007年)、その内約半分がサーマルリサイクルといって焼却し、熱として再利用していることがわかりました。図1にその内事業系を除いた一般系廃プラの処理割合(家庭から排出された廃プラの処理の重量割合)を示します。

分別し、当然素材等に再利用されているものと思っておりましたが、資源として再生や化学的**再利用されたものは、わずか17.7%**しかなかったのです。

小田原市でもトレプラごみの割合が増えており、重量当り熱量が上がっているため、燃烧温度を下げることや、炉の寿命を延ばすためにも**分別は大切なこと**です。ただし、分別して、燃やしてしまうのであれば、熱利用や発電できるシステムの導入により分別を減らし、ゴミ回収回数を減らすこともできると考えています。

■実施計画では炉の形式などが課題に

排出された灰などを減量化する灰溶融炉や、焼却から溶融までを連続処理するガス化溶融炉なども製品化されていますが、事故等の発生もあり、まだ信頼性に欠けています。詳しくは次号で!

消防&病院案内!

本年4月1日から消防情報指令システム本稼動しました。このシステムは、119番の入電と同時に災害現場の特定（固定電話であれば発信元、携帯電話であれば概ねの地図が即時に表示）や、災害の種類・規模などから、出動の部隊編成や指令を自動的に行うことができるものです。

119番電話の通話中でも自動的に指令が出せ、すぐ出動できる態勢が整います。

これまでは、火災or救急、住所確認、名前確認、被害状況などの確認を、電話を受けた指令員が聞き取り、地図で災害現場の場所を特定し、電話を切った後、出動隊や車両の準備をしていました。

このシステムの本稼動により、消防案内の充実が図られ、119番電話を受けてから災害現場に到着するまでの時間が47秒短縮されたそうです。

災害情報テレフォンサービス
(火事等の情報)

TEL 0180-99-4949

←災害情報案内携帯サービス
消防のサイレンが聞こえたら確認して見てください。

パソコンでは、以下のアドレスで

<http://www8.ocn.ne.jp/~odawara/saigai/>



インフルエンザかも?

急な発熱や喉の痛みなどインフルエンザのような症状がある場合には、次の対処をして下さい。

(1) かかりつけの医療機関がある場合

かかりつけの医療機関に電話して指示を受ける。

(2) どこかの医療機関に連絡したらいいのかわからない又はかかりつけが休診日の場合

地域医療連携室（保健センター内）に電話し、医療機関を紹介してもらう。 TEL 47-0833
月曜～土曜 9時～12時、13時～17時
(日曜・休日・年末年始は休み)

(3) 夜間、日曜・休日の場合

休日・夜間急患診療所（保健センター1階）に電話して受診する。 TEL 47-0823
日曜・休日 8時30分～11時30分
13時～15時30分
夜間 平日 19時～22時
土曜・日曜・休日 18時～22時

(4) それ以外で急を要する場合

消防署（24時間） TEL 49-0119
直接病院に行って、感染拡大させてはいけません。必ず電話をして指示を仰いでください。予防は
十分な栄養と睡眠 うがい・手洗いの励行

The Voice これまでに頂いたご意見から

事業仕分けは市議会の仕事なのでは

60代 男性

事業仕分けの様子が放映されていました。それを見て感じたことは、**なぜ仕分けを議会がやっていないのか**ということです。本会議や委員会では、機能を果たしていないと思われるかもしれませんが、このままでは市議会に対する政治不信が残ります。議会こそ、事業仕分けを取り入れたら如何ですか？

民主党政権になり事業仕分けの認知度が高まり始めた時に、小田原市で事業仕分けを行ったので、既に300以上の自治体で行われているにもかかわらず、メディアに取り上げられました。事業仕分けは、行政改革手法の一つで、当初は自治体の全事業を、不要と現行通りなどに仕分けすることが目的でした。しかし最近では、結果を予算に反映させることを主の目的とする自治体が増えたため、自治体の意思で継続・廃止が決められる事業をいくつか抽出し、個々の事業を綿密に検討するようになっていきます。

ポイントは、**仕分けをする対象事業の選定基準を明確にすること**。そして、**その結果をどのように予算に反映させるか**です。しかし残念ながら、議会には予算編成権はありません。議案提出された物に可否をするしかないので、一般質問、委員会の質疑や予算採決を項目毎行うなどしなければなりません。

月例勉強会のお知らせ

11月の勉強会は

日時：11/28(土)18時～20時

場所：市民学習フロア 学習室B 駅前ビルドラッグストア奥のイベントで4階

テーマ：「**ごみ処理広域化について**」

参加費：100円 終了後、実費で懇親会を行います。

i-mode HP →



HPは、**Yahoo!**で「たけまつただし」 月刊武松バックナンバー全て掲載しています。

寄付は、ジャパンネットバンク 本店 普通口座 7941377 タケマツタダシ
さがみ信用金庫 貸付センター出張所 普通口座 0051228 武松政策研究会 武松忠 まで
月刊武松は**本人が配布**しているため、行き届かないところがありますが、読み終わりましたら知合いの方にお渡しいただくと幸いです。また、**eメールでも送付していますので連絡下さい。**